

プラスチック問題を考える



日本マクドナルド株式会社
コミュニケーション&CR本部 CSR部 岩井 正人

事例：アイスコーヒーカップ

2016年Q3からマクドナルドで販売しているアイスコーヒーのカップをプラスチック製から紙製に変更しました。

私たちはカップ類を『森を守る』FSC認証の製品を使用することにしました。
プラスチックをやめるだけでなく、環境に優しい製品を選択することにしたのです。
※年間約8500万カップが紙製品になりました

2018年6月には現在使用している紙製容器包装類のほぼ100%がFSC認証の製品になりました。
プラスチック製品を紙製品にするだけでは十分ではありません
調達から考えなければなりません。



事例：リデュース

お客様にも発生抑制のご協力をお願いしています。
コーヒーをお買い上げのお客様に、コーヒーフレッシュ、シュガー、マドラーのご使用の有無をお伺いしています。
コーヒーフレッシュ、マドラーはプラスチック製品です。

マクドナルドでは簡易包装を奨励しています。
お持ち帰りのお客様には
持ち帰り用紙袋2袋まではそのままお渡しします。
お客様のご希望があった場合や、3袋以上になった場合に
プラスチック製の袋を使用しています。

また、1ドリンク用のプラスチック製袋を開発しました。



事例：クリーンパトロール

地域美化活動を全国の店舗で実施しています。
また、行政や市民団体が主催する清掃活動にも積極的に参加しています。
清掃活動を行うことで近隣の皆様とのコミュニケーションが生まれ、
自店舗のごみの廃棄状態も把握することができます。
また、自治体などと協同で美化運動をすることで自治体とのつながりもできます。

街に落ちているプラスチックごみこそ、風に吹かれ、排水溝に落ち、川に流れ、
海に流れ着いてしまうものです。
ごみを拾うことは、海にごみが流れ着かないということです。

例： 京都市美化運動

クリーンパトロール

地域美化活動を全国の店舗で実施しています。また、行政や市民団体が主催する清掃活動にも積極的に参加しています。



事例：絵本の導入

マクドナルドのハッピーセットは7月20日からおもちゃに加えて絵本と図鑑も選べるようになりました。幼少期に読書の習慣を身につけることは、知育、徳育、情操教育の観点から非常に重要です。またこの取り組みはプラスチック削減にも寄与します。



事例：ハッピーりぼーン



遊ばなくなったハッピーセットのおもちゃを、マクドナルドの店頭のおもちゃ回収ボックスで回収し、リサイクルを行い、マクドナルドのトレイを作る日本マクドナルドと環境省の共同プロジェクトです。

おもちゃの回収は世界中のマクドナルドで初の取組として注目されています。

回収場所：約2900店舗（全国のマクドナルドの店舗）

回収期間：73日間（2018年2月23日～5月6日）

回収目標個数：100万個

リサイクルされたトレイは
近々店舗に導入される予定です
今後も継続して実施の方向



ハッピーセットプロジェクトは、環境省と日本マクドナルドの共同プログラムです。

プラスチック問題俯瞰図



地下資源争奪が戦争の一因となっている

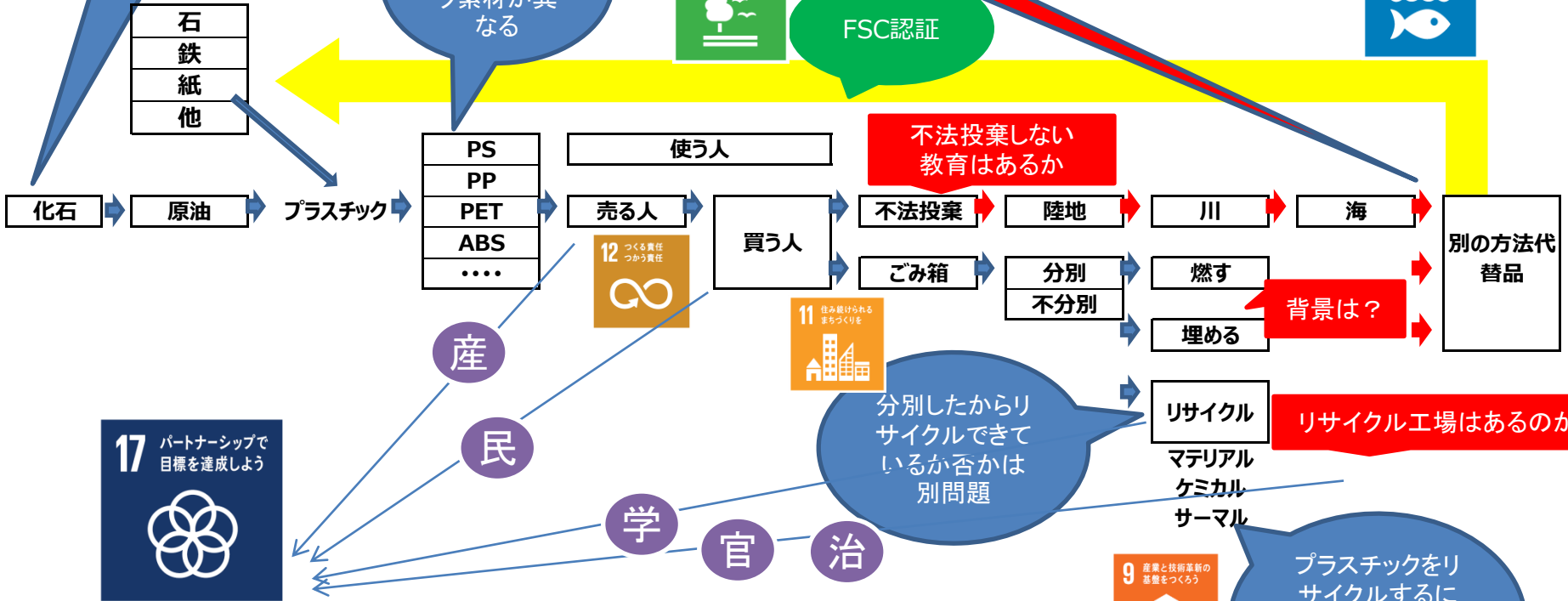
石
鉄
紙
他

現在ここだけにスポット

用途によってプラスチック素材が異なる



FSC認証



- 不法投棄しなければ廃棄物は海に行かない(消費者モラル・ESD)
- 廃棄・リサイクルシステム構築(自治体・企業)
- 廃棄・リサイクル工場誘致・設置(自治体)
- プラスチックから可能な範囲の脱却・代替品(企業・学)
- 新素材・代替素材の開発(学)
- 法律の整備・啓蒙啓発(関係省庁)
- 行動変化のインセンティブ(カーボンタックス・有料化)
- 質の高い情報発信と拡散(マスコミ)



プラスチックをリサイクルするには素材ごとに分別する必要があります

SDGs との関係性

プラスチック製品を売る人、買う人（つくる人、つかう人）は
目標12 つくる責任つかう責任

プラスチックのリサイクルや新素材開発なら
目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう

プラスチックリサイクルをかなえることこそ
目標13 気象変動に具体的な対策を

プラスチックの不法投棄がなくなることで
目標14 海の豊かさを守ろう

プラスチックの代替品が木材になるのであれば
目標15 陸の豊かさを守ろう

プラスチックの正しい廃棄や回収・処理は
目標11 住み続けられるまちづくりを

プラスチックに産官民学の協働
（委員会などのメンバー構成も含めて）
目標17 パートナーシップで目標を達成しよう

